

特集 北野の谷戸の自然環境

特集にあたって

菊一 敦子・深沢 遊

(トトロのふるさと財団 調査委員会)

キーワード：昆虫；最終処分場候補地；植物；鳥類；放棄水田

はじめに

狭山丘陵は東京都と埼玉県にまたがる東西約11km、南北約4kmの緑豊かな丘陵である。面積は約3500haあり、周りが住宅地に囲まれており、市街地に浮かぶ緑の島のように見えるため「緑の孤島」と呼ばれ、首都圏近郊に現存する貴重な里山景観となっている。中心部には狭山湖、多摩湖を取り巻く水源涵養林が位置し、その周辺は東京都側では大半が公園として公有地化されている。それに比べて埼玉県側では民有地が多いため雑木林が伐採され、家庭菜園、資材置場、ペット霊園などに開発されている現場を数多く目にする。丘陵地形の特徴として、浸食により複雑な谷戸（やと）が多く形成され重要な水源地となっているが、度重なる開発によって次々に埋立てられ、残された谷戸は非常に少なく面積も狭い。現存する谷戸は丘陵全体で27ヶ所、うち東京都側が16ヶ所、埼玉県側は11ヶ所になっている（大堀2007）。

北野の谷戸の概要

北野の谷戸は狭山丘陵の中でも東部に位置する雑魚入樹林地の一角にあり、柳瀬川支流の六ツ家川の源流域にあたる（図1、2）。この一帯は狭山丘陵の中でも良好な自然地として知られており（所沢市1987；トトロのふるさと財団2006）、埼玉県の緑のトラスト2号地やトトロのふるさと財団トラスト地（トトロの森1号地・3号地）、所沢市保護地区（いきもの

ふれあいの里スポット2）が含まれ、所沢市民だけでなく東京都民からも親しまれている散策コースになっている。

北野の谷戸の面積はおよそ0.5haで、狭山丘陵に現存する谷戸27ヶ所の中では16番目の広さである（表1）。現在も湧水が湧き出している谷戸の底部には耕作放棄された水田が湿地となって残っており、雑木林と湿地が一体になったすぐれた景観（囲繞景観）が形成されている（図3、4）。水田が放棄されたのは、地権者への聞き取りによると1971年前後であり、水田耕作が放棄されてから40年近く経過していることになる。

2005年、北野の谷戸は所沢市の一般廃棄物最終処分場の最有力候補地になり、開発の危機にさらされた。幸い、保護団体の反対活動等により処分場になることは回避されたが、保全区域ではなく民有地のため相続税対策などで今後も何らかの開発にさらされる危険度が高く、保護策が急がれる地域の一つである。湿地はひとたび埋め立てられてしまえば、雑木林であれば復元可能でも、湿地として復元することは不可能であるため、数少ない谷戸を保全していくための方策が急務である。トトロのふるさと財団では、北野の谷戸周辺地域を風致公園などとして公有地化し保全していくことを所沢市に要望している（2007年2月）。また、隣接する北野一般廃棄物最終処分場（3.3ha）の跡地利用については、元の状態に復元して自然再生す

ることにより、北野周辺地域の保全を拡大するよう要望している。(2006年9月)。さらに2008年11月、トトロのふるさと財団は北野の谷戸の一部(1132m²)をトラスト取得することに成功した。2009年に発表されたトトロのふるさと財団長期構想検討委員会最終報告書においても、北野の谷戸は重点的に保全を目指すモデル地域として挙げられている(トトロのふるさと財団 2009)。

これからの保全に向けての現状調査

耕作放棄地として40年ちかく放置された谷戸の現状を把握することにより今後の保護・保全・活用に生かしたいという目的のもとに調査を行った。本特集はその結果をまとめたものである。特集にあたり、北野の谷戸の自然環境を長年調査されている蒔田和芳氏より寄稿いただいた。堀井は鳥類相について、宮崎は昆虫相についてそれぞれ紹介する。続いて深沢は、一年間行われた植物相調査の結果をまとめ、帰化植物の割合や希少種の存在から北野の谷戸の植物相の特徴を紹介する。さらに北川と関口は、特に放棄水田に注目して行った詳細な植生調

査の結果から、放棄水田が植生遷移のどの段階にあり、今後どういった管理が必要と考えられるかについて述べる。なお植生調査については、放棄水田において地下水位と植生との関係を明らかにするための調査と、耕起や草刈りといった行為が植生に与える影響を明らかにするための調査を2008年12月から2009年12月まで1年間の計画で始めている。

調査にあたっては、谷戸に立ち入ることを快く許可し、協力していただいた地権者の方々に心から感謝申し上げたい。

引用文献

- 大堀聰(2007) B地区評価委員会資料、早稲田大学自然環境調査室、所沢
- 所沢市(1987) 所沢市の植生、所沢
- トトロのふるさと財団(2006) 狭山丘陵における里山保全の提言、所沢
- トトロのふるさと財団(2009) 長期構想検討委員会最終報告書、所沢

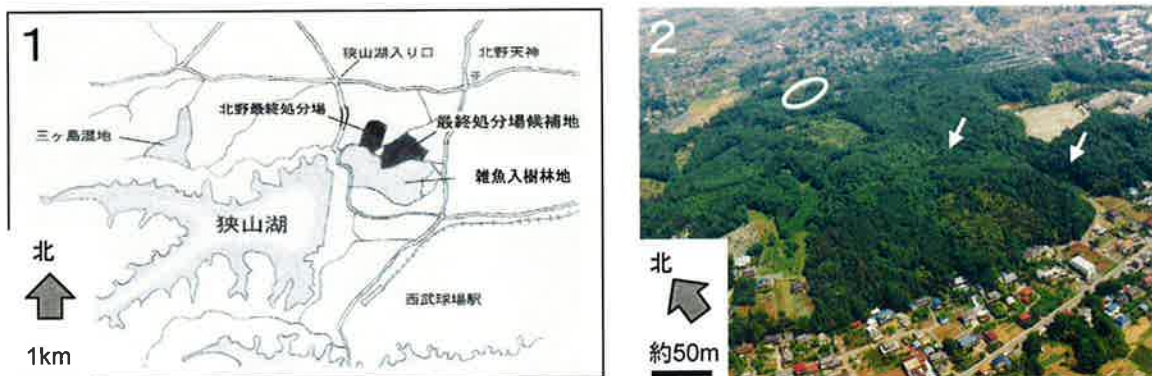


図1、2 北野の谷戸の位置。図1は狭山丘陵のなかでの雑魚入樹林地と北野一般廃棄物最終処分場の位置、および一般廃棄物最終処分場候補地となった北野の谷戸の位置を示す。図2は雑魚入樹林地全景(埼玉県緑のトラスト協会提供)。楕円で囲んだ部分が北野の谷戸。白い矢印はトトロの森1号地(左)と3号地(右)を示す。



図3、4 北野の谷戸の風景。図3は谷戸下部の耕作放棄水田(夏)。図4は2つある北野の谷戸の谷戸頭のうちのひとつ。茶畑が広がる。もうひとつの谷戸頭は開発され資材置き場やペット霊園となっている。

表1. 狭山丘陵に現存する谷戸の面積 (大堀 2007より作成)

No. 谷戸名	面積 (ha)
1 早稲田B湿地	3.0
2 大谷戸	2.0
3 宮野入	1.8
4 赤坂	1.5
5 西久保	1.5
6 田ノ入	1.1
7 後ヶ谷	1.0
8 桜沢	0.9
9 滝ノ入	0.9
10 八幡	0.9
11 宮野入(東側)	0.8
12 細田	0.7
13 エヶ入	0.7
14 六地藏	0.7
15 横田	0.6
16 北野の谷戸	0.5
17 里山民家前	0.5
18 日野出	0.5
19 蛭子谷戸(堀口天満裏)	0.5
20 滝田谷津	0.4
21 猿久保	0.4
22 学習田んぼ	0.4
23 早稲田A湿地	0.4
24 別所池脇	0.4
25 北狭山	0.3
26 滝田(西側)	0.2
27 県トラスト2号地	0.2